

モーニングケア(洗面・口腔ケア・ベッド周囲の環境整備)の充実

4階西病棟 ○手嶋 麻恵 中島 和美 水落 千鶴 吉武 愛恵 兵道 真由美

【はじめに】

近年、社会構造や疾病の変化に伴い、看護ニーズは高度化・多様化している。その中、社会からは「質の高い看護サービス」が求められている。当病棟は、入院患者の約半数以上が日常生活動作の介助を必要とする患者であり、夜勤帯は少ない看護要員、限られた時間の中で多くの患者を看なければならぬことから、モーニングケアが十分に実施できていないのが現状である。雨森らは、モーニングケアとは「一日の活動開始準備のために早朝に行われる基本的な看護援助であり、患者の個別性に応じて複数の生活活動を組織化して提供していく日常生活行動援助」と述べている。今回、モーニングケアができないのはなぜか、深夜帯の実態調査とスタッフの意識調査を行うことで原因が分かり対策がとれるのではないかと考え、本研究に取り組んだ。

【方法】

- ① 夜帯モーニングケア現状のアンケート実施
- ② モーニングケア改善対策後の実態調査
- ③ 実態調査を基に、ケアができなかった時の理由、意識付けになったかアンケート実施

【結果・考察】

研究を始めるにあたり、対象者に深夜帯のモーニングケアができていないのかアンケートを行った結果、半数の看護師が出来ていないことが分かった。できない理由として、①不穏患者対応②ナースコール対応③排泄介助④バイタルサイン測定に時間がかかる、があがっているが①～③は改善できることではない。④に関しては経験年数がある看護師は、必要性がある患者に必要なことを測定しているが、経験年数の浅いスタッフは全患者に血圧・体温・SPO2測定してしまっている。「バイタルサイン測定の見直し」が必要であると思ったが、すぐに業務改善できることではなかった。そこで、他にモーニングケアができる方法がないか考えた。「リーダーシップとは「特定の目的を実現するために、個人や集団に影響を及ぼすこと」と言われているため、まずは研究メンバーが、改善策を提案し実施、対象看護師に実践してもらった。その結果、環境整備は殆どできていないが、口腔ケア・洗面は研究開始時のアンケートよりもできていた。できた理由として、実態調査が始まったことで、更に「しなければいけない」という意識が高まり、また、手の届くところに物品を準備しておくことで有効な時間を作ることができたと考える。

大橋は「患者に快適な状況を作り出すことで日中の活動性を高め、生活リズムの調整や健康の回復につながる」と述べている。今回の研究で患者へのアンケートはできていないが、ケアを提供することで患者より「気持ちいい」「ありがとう」などの言葉が聞かれた。患者の状態を看る、患者へ医療を提供することが優先されケアが行き届かないのが現状であったが、今回の研究を通して、忙しくても工夫をすれば有効な時間が作れることがわかった。短時間であっても日々の積み重ねが健康の回復につながるため、引き続きモーニングケアを提供していきたい。